広い空 未来につなぐ えがおの南山幼稚園

港区立南山幼稚園　Minato City, Nanzan Kindergarten

教育目標
〇げんきな子
〇よくかんがえる子
〇なかよくする子

９月園だより

令和8年8月26日
August 26, 2026
園長 河合 晴美
Principal
Harumi Kawai

豊かな世界と出合い 多様な可能性を広げる子どもたちに

園長 河合 晴美

今年の夏は、ミンミンゼミからクマゼミ、アブラゼミと月日の流れとともに、多くのセミの聲がにぎやかに響く幼稚園の夏となりました。職員室前の緑のカーテンは、例年に比べるとより多くの葉をつけ、実もたくさんなりました。サポート保育にやってきた子どもたちが大きく実ったゴーヤを手に取り「ゴツゴツしているけどやわらかい」とうれしそうに教えてくれました。私たちは、このような豊かな時間を過ごすことができましたが、熊本県や千葉県の方々は、地震や豪雨という急な災害による恐ろしさや不安、未だ不自由な生活を送る日々となり、心が痛みます。少しでも早い復旧と復興により日常生活が取り戻せますよう、心よりお祈り申し上げます。



さて、園内では子どもたちのことを振り返りながら、１１月に迎える研究発表会に向け改めて考えをまとめていました。今まで子どもたちが表した興味深い遊びを社会的な背景や研究文献等から引用したものと合わせ、私たちが示した分析・考察の観点で意味付けをしました。そして、南山幼稚園としてめざす幼児の姿や生活を明らかにし、具体的な手段と方法に基づき、教育活動をさらによりよく展開できるように考えているところです。

その中で「おもしろさ」とは、という視点について考える機会がありました。子どもたちが「おもしろい」と遊ぶ姿には、パワーがみなぎり、目的となるゴールをめざし進んでいく力強さがあります。主体性だけではなく、新しい要素がたくさん生まれ、取り込むことで学びが生まれています。このような姿は、見ている（聞いている）私たちの心も動く、唯一無二の貴重なときとなっています。「遊びは、おもしろさを追求する活動であり、子どもは遊びを通して発達する存在である」と示されている言葉通りです。

「おもしろさ」には、2つの側面があり、認知的側面（interesting）は、探究心を導き、感情的側面（funny）からは、思いを共有することで、友達関係の広がりや深まりを導くことも確信しました。このような場面を多く経験できるよう、研究の経過の中でめざす幼児の姿を「豊かな世界と出合い 多様な可能性を広げる南山の子」としました。そして、各学年の子どもたちが発達段階に応じて「自分で考えて行動する」「最後までやり遂げる」「思いやる」「工夫する」「表現する」などの側面が獲得できるように支え、成長につなげていきます。

まもなく2学期が始まります。子どもたちは、また新たな新しい世界を繰り広げていくことでしょう。偶然や小さな事柄も大きな成長につながる流れの中で、キラキラ光る一つの出来事となるように、私たちは、子どもたちに寄り添いながら生活する伴走者として力を注いでまいります。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。



＜1 学期の終業式の様子＞